ＡＩと子どもたち

ＡＩって何？
　ＡＩの危険性って？
　　子どもに必要な力とは？
気になったら、ぜひ、読んでみて！

入間市教育委員会
家庭教育応援通信
２０２５年１２月

こんにちは
こちらは入間市教育委員会です

この家庭教育応援通信では
子育てに必要な情報を
皆様にお伝えしていきます。

入間市マスコットキャラクター
「いるティー」

今回は、
ＡＩと子どもたち
についてお伝えしていきます。

ＡＩとは

　ＡＩはArtificial Intelligence（アーティフィシャル・インテリジェンス）の略で、「人工知能」を意味します。

　人間では処理しきれない大量のデータを分析し、その中からパターンを見つけ出して、高度な判断を行うコンピューターシステムやプログラムを指します。

若者とＡＩ

　全国大学生活協同組合連合会の調査では、生成AIサービスを「利用せず、今後も利用しない」という大学生はわずか11.7%。博報堂教育財団の調査では、小中学生の使用経験率は全体の4割。

　ＡＩは、もはや若者の日常になっているようです。ＡＩで何ができるのでしょうか。

娯楽としてのＡＩ

　ゲームやクイズ、占いの他、ユーザーの好みに合わせたコンテンツの提案、ライブイベントの同時翻訳など、ＡＩを使って若者は様々な楽しみを得ています。

　また、データを入力すれば、自分にあったファッションなどを提案してくれます。

効率化としてのＡＩ

　授業のレポート、就職のエントリーシートのアイデア出し、メールやプレゼンの下書きなどの支援をＡＩから受けています。

　すべてをゼロから考えるのではなく、先人の知恵を効率的に学んでいると言えるでしょう。

創造性としてのＡＩ

　ＡＩなら、専門的な知識がなくても自分で何かを作り出すことができます。

　自分の好みに合わせたイラストや動画、ゲームの作成、作詞作曲、物語や小説の執筆などができて、それをＳＮＳで共有する若者もいます。

話相手としてのＡＩ

　ＡＩなら、24時間いつでも、他人の評価を気にすることなく会話をすることができます。

　人間関係の悩みなど相談しにくいことでも、ＡＩが肯定的に反応してくれます。そして、解決法も示してくれます。

ＡＩの人格化

　アメリカのある調査では、10代の3分の１が、ＡＩソフトとの会話を人間との会話と「同等かそれ以上に満足できる」と回答しています。

　ＡＩを自分の友だちのように感じている若者は相当数いると考えられます。

　ＡＩがこれだけ身近になっている今、その課題を知って考える必要があります。

ハルシネーション（幻覚）

ＡＩは、ハルシネーションと言われる実際には存在しない、あるいは間違った情報を提示することがあります。

これは、ＡＩに学習させたデータに誤った情報や偏りが含まれている場合や、ＡＩが学習した中からもっともらしい順で予測して文章を生成するけれども、事実かどうかの判断はしない、ということから起こります。

ＡＩは嘘をつく

　ある国の裁判で、弁護団がＡＩを利用して作成した書面を提出したところ、実際には存在しない判例や偽の引用が含まれていることがわかり、問題になりました。

　ＡＩはさも確実そうな表現をするためついつい信じてしまいがちですが、人はその内容をきちんと検証する必要があるのです。

嘘を見抜く目を

　ＡＩの回答を人に伝えたり実践したりする前に、信頼できる情報源と照合する必要があることを子どもたちに教えましょう。

　また、ふだんから子どもと一緒に、新聞やテレビのニュースなどで、世界のできごとや流れについて知っておくことが必要ではないでしょうか。

ＡＩへの誤った信頼

　子どもがＡＩを人間のようにとらえると、誤った信頼感を抱く危険性があります。

　アメリカでは、10代の子が亡くなったのはＡＩとの対話のせいだとして、遺族が企業を提訴しています。ＡＩがその方法について助言したと言うのです。

　大人はＡＩの危険性を認識すべきです。

子どもに判断力を

　ＡＩをうのみにしないように子どもに伝えて、ＡＩのリスクや間違いに目を向けさせ、家庭で正しく安全に使うことができるように心を配りましょう。

　さらに大事なのは、子ども自身の判断力や思考力を育むことです。どうしたらいいでしょうか。

ＶＵＣＡ(変動・不確実・複雑・曖昧)

　VUCA（ブーカ）の時代と言われる現代社会では、これまでの経験や知識だけでは解決できない課題に直面します。

　これからは、ＡＩなどによって過去の事例から効率的に解決法を探る力とともに、ネガティブ・ケイパビリティと言われる力が重要になると言われています。

ネガティブ・ケイパビリティ

　ネガティブ・ケイパビリティとは、どうにもならない状況やすぐに答えが出ない問題に対して、急いで答えを出さずにしばらくその状態を受けとめながら乗り越える力のことです。

　これによって、その先にある深い理解や新たな発見を導き出すことができます。

そのために必要な力とは

- 焦らない力

  答えが見えない状況でも焦らない力。

- 耐える力

  曖昧な状態や違和感を抱いたまま、そこで耐える力。

- 思考力

  安易な結論や既存の知識に頼るのではなく、じっくりと考え抜く思考力。

どっしりと受け止める

　これは、面倒だからと問題解決から逃げ出す「結論の先延ばし」とは受け止め方が違います。

　経験したことのない場面で、焦らず、一度立ち止まり、ときに人と話をし、知っていると思い込んでいたことや問題の奥にある本質的な部分について深く考えるのです。

深い会話をしよう

　そこで、家族との深い会話や内省的な時間を意識させてみてはどうでしょうか。

　家族で、表面的な会話ではない、「なぜ、そうなのか」「本当はどう思っているのか」という物事の本質についての会話をしてみませんか。

　会話によって深く掘り下げる方法は、令和7年12月の「親子で深い会話をしよう」で紹介しています。

内省的な時間を

　また、自分の感情や思考を客観的に観察する習慣を持つことも有効です。

　簡単なのは、静かなところで、何に不安を感じているか、それはどこから来るのかを書き出すことだそうです。

　文字にすることで、具体的な対処行動に移ることができるのです。

ＡＩとともに

　もはや、ＡＩの進歩を止めることはできないでしょう。

　ＡＩを使わないという選択には無理があり、ＡＩをうのみにしない、正しい価値観や判断力を身につけさせるべきです。

　スマホが小中学生にまで普及した今、家庭でもそのことを考えていきましょう。

正しい判断力を

　ネガティブ・ケイパビリティに限らず、正しい価値観や判断力を身につけるには、多様な価値観に触れるとともに、自分で考えて行動する場面を数多く経験し、その失敗や成功を通して学ぶ必要があります。

　それらの繰り返しの中から、ようやく自分の価値観を確立し、判断できるようになるのです。

より広い世界観を

　最近は、家族以外の様々な人との出会いが減り、読書離れが進んでいて、多様な考え方や人生があることを実感することが難しい時代です。

　子どもが、正しい価値観や判断力を身につけるためにも、家庭では、より広い世界観を大切にしていきたいですね。

今回は
ＡＩと子どもたちについて
お伝えしました。
気になったことについて
さらに調べてみては
どうでしょうか。

入間市マスコットキャラクター
「いるティー」